

### ① 温度表示パネル

屋上緑化による建物表面の温度抑制効果を目で確認できるよう、温度表示パネルを設置しています。計測ポイントは、コンクリート面Ⅰ点（南側フェンス外）、芝生面Ⅱ点（土の厚み200mm）、植栽エリアⅢ点（土の厚み450mm）で、緑化した場合としなかった場合、土の厚みが違う場合で温度表示をしています。



### ④ 季節の花壇

四季折々の草花を植栽しています。京てらすを訪れた方に喜んでいただけるよう、目にも楽しい花壇づくりを心がけています。



### ⑤ 源氏の庭エリア

源氏物語に登場する約110種の草花のうち、屋上緑化に適した12種を植えた花壇を整備しました。（平成20年6月に「源氏の庭」として開園）千玄室氏に揮毫いただいた銘板が設置されています。

### 井戸水・雨水の活用

散水は、土壌の中にパイプを埋め込み、降雨センサーにより自動で行っています。使用する水は井戸水で、この井戸水は昭和46年にこの2号館が建てられた時から活用しており、普段はトイレの水などに使用しています。また雨水タンクを設置し、棟屋に降った雨を溜めて植え替え時の水やりなどに使用しています。

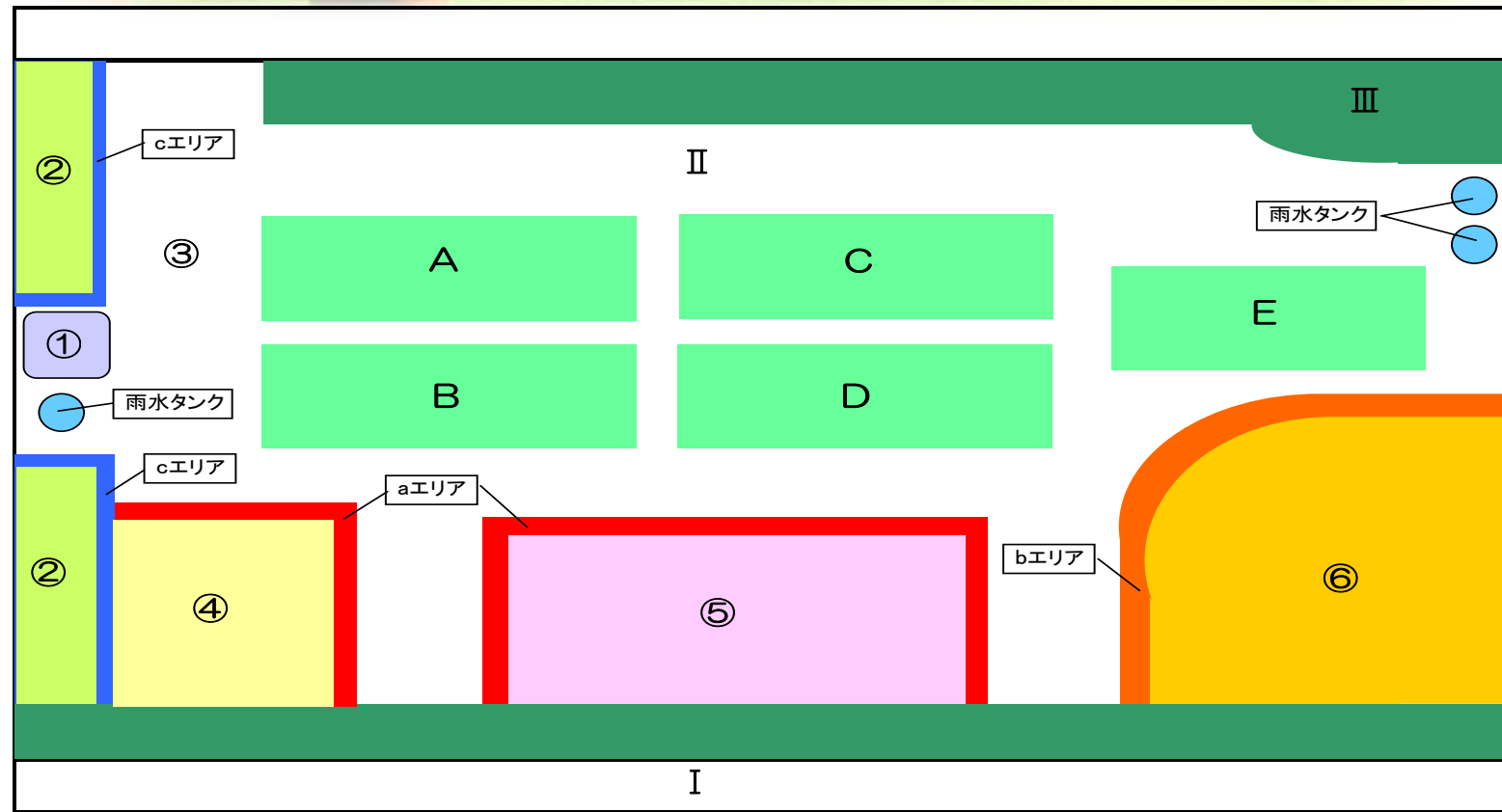


### ② 壁面緑化

建物の壁面を緑化することで、蓄熱と熱の放射を防ぎます。植栽には常緑のキツタと紅葉が美しいナツツタを使っています。いずれも「付着根」といって壁に根を付着させて登ります。さらに壁面前のプランターでは、カツラとアサガオを植栽しており、緑化の相乗効果を図っています。

### ③ 土壌の工夫

屋上緑化は、建物の上に緑化をするため積載荷重を超えないようにする必要があります。そこで土壌も軽いものが必要になり、真砂土にパーライト※という軽い土を混ぜて普通の土より50%~80%軽くしています。（※パーライト=黒曜石、真珠岩などを焼成した多孔質の土壌改良材）また、植物を植えて育てるには、植物に水を与える保水性と余分な水を排出し根腐れを防ぐ排水性も必要です。そこで保水性を高め地力を高めるため、ピートモスという植物の堆積物でできた泥炭を乾燥させたものを混ぜたり、排水性を高めるための排水マットを敷き詰めています。この他にも軽い土壌や土壌の代わりをする基盤材など様々な技術があり、芝生の基盤材の一部を企業協賛により整備しています。



### ⑥ 府民参画エリア

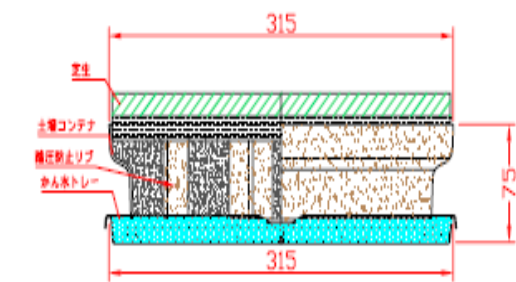
屋上緑化に楽しみながら関わっていただけるよう、ボランティアグループ「京都府庁屋上緑化協力隊」名付けて「京緑隊」が自由にデザインするエリアを設け、植え込み作業や手入れをしています。季節の花やハーブを植えたり、屋上菜園にもチャレンジして収穫を楽しんでいます。



## 協賛事業者による各種基盤材

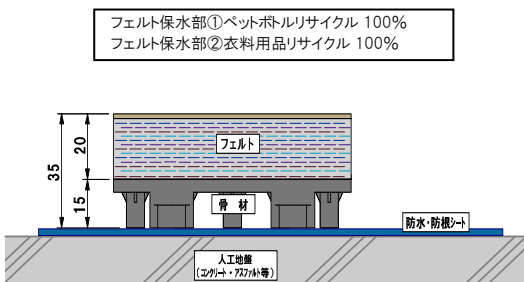
**A** 天然芝に必要な育成水の77%を雨水でまかなうことができるシステム

(共同カイツック株式会社)



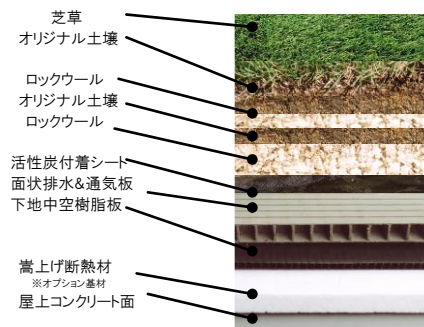
**B** 保水・排水・通気性に優れた薄層超軽量の屋上緑化植栽基盤

(株式会社山崎産業)



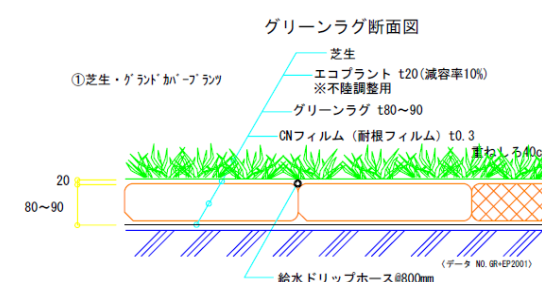
**C** 体積比率70%の高保水性でありながら毎時2,000mmの大雨でも表面滞水しない構造（特許公開中）

(卵巣緑地化学研究所)



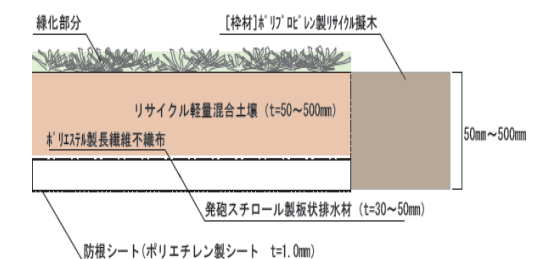
**D** ヤシの皮をリサイクルした基盤材

(平安建設工業株式会社)



**E** 浄水ケーキ造粒材とセラミック活性炭を活用した植栽軽量土

(まちなか・屋上緑化ピオトップ推進協議会)



## リサイクル材の縁石

花壇の縁などに使う「見切り材」についても、リサイクル材を活用したものを企業協賛により設置しています。

- aエリア：「エコセメント」に古紙などのペーパースラッジ再生骨材を活用した見切り材（東邦レオ株式会社・株式会社トウシンコーポレーション）
- bエリア：瓦リサイクルブロック（株式会社園陽）
- cエリア：ペットボトルのキャップを再生した見切り材（まちなか・屋上緑化ピオトップ推進協議会）